

**社会福祉学・英語教育・法律学・社会学・教育学・統計学・情報教育・
体育学・政治学・国際関係学・コミュニケーション関係学グループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会開催要項
オンライン開催**

1. 開催趣旨

新型コロナの感染が弱まりこそすれ蔓延が続く中であって、大学では対面授業と遠隔授業の長所を組み合わせたハイブリッドな授業がニューノーマルな教育として受け止められつつあります。

学びのデジタル変革は、対面による物理的空間の学びと、時間・場所を越えた遠隔・オンラインによる仮想空間の学びを組み合わせることにより、多様な「知」や「体験」との融合を可能にする学びの高度化と、学修者個々の可能性を伸長する学修者本位による教育への転換を加速する点で、必須の教育のパラダイムシフトと考えます。デジタル技術の導入が目的ではなく、それを手段として活用し、学生が生涯に亘り主体的に問題発見・解決に関与し、価値創造につないでいくなど、社会貢献の幸せを享受できるように支援していくことが教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)ではないかと考えます。

そのような観点から本対話集会では、ポストコロナ社会で質の向上を目指す新たな学びの創出として、思考・判断の考える力を訓練するハイブリッドな授業を如何にデザインし、学生に最適な学びを提供することができるかを探求し、改革行動につなげていく場としました。

2. 対話集会のねらい

ポストコロナ社会におけるアクティブ・ラーニングの新しい学びの創出及び推進普及を目指すため、次の観点を意見交流します。

- ① 地域の社会課題や SDGsなどをテーマに、学修者の可能性を伸長する教育への転換、遠隔と対面を効果的に組み合わせた問題発見・課題解決型教育(PBL)の工夫と課題、戦略を研究します。
- ② ネット上で多分野の知識を組み合わせ、知の創造を訓練する授業モデルの可能性を研究します。
- ③ 対面と遠隔の複合形態による学修プラットフォームに必要な機能と課題について整理します。
- ④ クラウドを活用したビデオ試問による思考力等の点検・評価・助言モデル構想のニーズを確認し、学生に点検評価の結果をフィードバックする仕組みの実現可能性について研究します。

3. プログラム

- (1) 開催趣旨の説明
- (2) アクティブ・ラーニングの話題提供

① 社会福祉学分野

「実習教育に ICT を活用することで見えてきた効果と課題」～コロナ禍での社会福祉教育とアクティブラーニング～

社会福祉現場での相談援助実習に代わるオンライン代替授業について、ICT等を活用した事前の教材準備、実際の実習教育、事後評価を通じて横断的に見えてきた効果と今後の課題について報告します。

東洋大学社会学部教授 藤林 慶子 氏

② 英語教育分野

「学修者相互評価のモバイルアプリを利用した英語プレゼンテーション授業の評価」

3週間おきに海外の若者を3対1になるよう招聘して、環境問題・宗教と科学・SDGs・世界遺産等について対話とプレゼンテーションを重視した授業を実施し、アプリでピアのプレゼンテーションを評価しており、アンケート結果と評価方法について報告します。

青山学院大学名誉教授 小張 敬之 氏

③ 政治学分野

「政治学科における全演習の紹介と修学支援のオンライン化の取り組み」

学科全体の演習内容を各教員で演習動画を作成・アーカイブ化し、公開することで演習選択のミスマッチを防止しています。また、講義科目においても、卒業生や外部ゲストの知見を随時オンラインで紹介し、学修意欲の維持向上、教員間の連携促進に努めている取り組みを紹介します。

駒澤大学法学部教授 清滝 仁志 氏

④ 国際関係学分野

「オンラインで実施する国際協力に関する海外研修の可能性～学生本位による学びへの取組み」

2021年2月及び8月に「国際地域学研修」として、タイの貧困地域における子供達の教育支援をテーマに、現地カウンターパート校、国際NGO等と連携してオンラインで調査・発表し、「自分ごと」として国際協力を学び・考える視座の構築に至る効果がみられた取組みを紹介します。

東洋大学国際学部助教 柏崎 梢 氏

⑤ 教育学分野

「実技演習が不可欠な大学授業のオンライン実施の工夫とICT活用の可能性の取組み」

実技演習が必要な資格関連の授業として、教職課程教育方法に関する科目で数十人規模のオンラインによる模擬授業の実践とピア・レビューによる授業改善の報告と、教職関連科目のハイフレックス型授業における協調学習の演習事例についても紹介します。

早稲田大学教育・総合科学学術院教授 三尾 忠男 氏

⑥ 統計学分野

「実課題・実データによる反転授業の教材及び仮想空間を活用したPBL型授業の取組み」

統計・データサイエンス教育の全学必修化に向けて、モデル・カリキュラムに沿った反転授業の教材作成と共有化、oVice等のバーチャル教室を設け、アバターで学生同士が意見交換し、教え合い・学び合いを試行している取組みを紹介します。

サイバー・キャンパス・コンソーシアム統計学グループ運営委員会

(3) 意見交流

- ① 学修者本位の教育への転換、遠隔と対面を効果的に組み合わせたPBLの工夫と課題及び戦略
- ② ネット上で多分野の知識を組み合わせ、知の創造を訓練する実験授業モデルの可能性
- ③ 対面と遠隔を組み合わせたプラットフォーム作りと課題の整理
- ④ ビデオ試問による思考力等の点検・評価・助言モデル構想の具体的なイメージ確認と課題

4. **参加対象者**：国・公・私立大学の教員、職員、授業補助学生(TA・SA)など

5. **開催日時**：令和3年12月18日(土) 13:00～17:00

6. **会場**：オンラインによるテレビ会議室 (Zoom使用) とします。なお、申込者には、テレビ会議室専用のURLを12月13日(月)に申込書のアドレスにメールで通知します。

7. **定員**：200名 (先着順で受け付けます)

8. **参加費**：無料

9. 資料の配信

準備ができ次第、資料を以下のページに掲載します。

<https://www.juce.jp/senmon/active/>

10. 参加申込

別紙申込書に必要事項とアンケートを記入の上、FAX又はメール添付で**12月10日(金)**までに申し込み下さい。申込締め切り後でも受け付けることがありますので、事務局に問い合わせ下さい。

メール送信先：info@juce.jp FAX送信先：03-3261-5473 TEL：03-3261-2798

11. その他

12月18日(土)終了後、参加者には12月21日(火)から23日(木)の3日間、対話集会の開始から終了までの録画を閲覧できるようにします。また、意見交換による課題等の整理は後日、改めて文章で本協会のWebサイトに掲載する予定にしています。